

教育関連記事

エデュサン  
edu sun

7

2025 / No.118



マシュマロ、焼けたかな？今年のサマースクール（前期）には小学生 40 人が参加  
(photo: ニューヨーク育英学園)

## 1. 教育レポート

- ◆エンパイア・ステート・ビルの環境対策に迫る！ NY 日本人学校
- ◆海と触れ合う特別な1日「グリニッヂ・ポイント・パークで移動教室」 NY 日本人学校
- ◆通知表にはない成長たたえ、1学期終業式を開催 NY 日本人学校
- ◆サマースクールが始まったよ こどものくに幼稚園
- ◆サマースクールで囲碁・将棋に挑戦 こどものくに幼稚園
- ◆レイク・グリーリー・キャンプを終えて NY 育英学園

## 2. NY 教育関連ニュース

- ◆全米の「ベストバリューユニバーシティ」はどこだ？ NY 州からは“あの10校”が選出  
教育の質と学費のバランスが高評価 コロンビア大や CUNY もランクイン
- ◆セクハラにさらされる少女たち「怒っていい。もっと声を上げて」
- ◆全米トップクラスの評価 NY 州の「教育力」
- ◆NY の名門コロンビア大学が「負け和解」、連邦政府に2億2100万ドル



エデュサン  
edu sun

# 1. 教育レポート

EDUCATION REPORT

# エンパイア・ステート・ビルの環境対策に迫る！

NY日本人学校

2025.07.29

ニューヨーク日本人学校（コネティカット州グリニッヂ、森本恵作校長）の中等部33人は6月25日、エンパイア・ステート・ビルで校外学習を行った。

1931年に建造されたこのビルは、当時、世界一高いビルとしてニューヨークに君臨。現在もランドマークとして親しまれているが、同時に環境対策の先進例としても注目されている。

生徒たちは、エンパイア・ステート・ビルが実践している環境対策を未来の街づくりに生かすことができるのでないかと、事前学習を経てビルのツアーに参加した。生徒たちはガイドの話に耳を傾け、懸命にメモを取りながら事前学習で得た知識と新たな情報を整理した。

展望台ではマンハッタンを一望、遠くに自由の女神像も眺めることができ、このビルがニューヨークの象徴であることを再認識した。

今後は事後学習として、エンパイア・ステート・ビルの環境対策が日本の将来の街づくりにどう生かせるかを考察し発表する予定だ。（情報・写真提供：ニューヨーク日本人学校）



模型の前で記念撮影



トリビアを交えて解説するツアーガイド、みんな、すっかり“勉強モード”



真剣にメモを取る生徒たち



展望台からはマンハッタンを一望。右にはニューヨークのもう一つの象徴、クライスラービルが

# 海と触れ合う特別な1日「グリニッヂ・ポイント・パークで移動教室」

NY日本人学校

2025.07.29

ニューヨーク日本人学校（コネティカット州グリニッヂ、森本恵作校長）初等部1年生は6月26日、生活科移動教室をグリニッヂ・ポイント・パークで実施した。この日のテーマは「うみべであそぼう」。少し肌寒く、風も吹いていたが、子どもたちは元気いっぱいに二つの活動に取り組んだ。

一つ目の活動は「生き物探し」。2人1組で浜辺に出かけ、カニや貝殻などを探した。子どもたちは夢中になって岩場を探し回り、生き物の特徴を観察したり、Artの時間に使用する貝殻を拾ったりしていた。「初めてカニに触ったよ」と誇らしげに見せる子どももいた。

二つ目の活動は「浜遊び」。この日のために、事前にクラスで話し合いながら遊びを考え、当日はそれを形にした。水鉄砲遊びから始まり、山崩しゲームや砂浜街作りを行った。特に、海水を使った水路作りや池作りに夢中になり、時間いっぱい浜遊びを楽しんだ。

グリニッヂ・ポイント・パークの豊かな自然に触れたことで、子どもたちは五感を通して多くのことを学び、自然とともに遊ぶことの楽しさを実感した。心に残る、充実した一日となった。

(情報・写真提供：ニューヨーク日本人学校)



今日は何するのかな？事前に「かくに～ん」



ちょっと肌寒いけど、ちびっこたちは元気です。

プランクトン採れたかな？



バケツの中には小さなカニが。「動いてる動いてる！」



夢中になって浜辺の生き物を探す子どもたち

# 通知表にはない成長たたえ、1学期終業式を開催

NY日本人学校

2025.07.31

ニューヨーク日本人学校（コネティカット州グリニッヂ、森本恵作校長）は7月11日、1学期の終業式を行った。児童生徒は、スクールピクニックや運動会などの数々の学校行事、委員会活動やクラブ活動、日々の学びを通じて多くのことに挑戦し、大きな成長と達成感を得た1学期となった。

式では2年生の代表児童が生活科の移動教室でグリニッヂに住む地元の人たちに英語で質問をした経験や、運動会でダンスを踊ったことなどの思い出を、9年生の代表生徒は、先生や友人のアドバイスを受けながら自分に合った勉強法や時間の使い方を見つけたこと、仲間と一緒に努力することの大切さと楽しさを実感できたことなど、心に残る学びについてスピーチした。

森本校長は子どもたちの努力と、アメリカ生活を通じて得た貴重な学びにふれ、「通知表に書かれていない部分にも、それぞれの成長がたくさん詰まっている」と激励。夏休みならではの体験を通じて、さらに学びを深めてほしいと結んだ。

2学期は、初等部・中等部の修学旅行、スクールフェスティバル、現地校との学校間交流、Art科移動教室などを予定。9月には開校50周年の記念式典と関連行事も開催する。（情報・写真提供：ニューヨーク日本人学校）



終業式で挨拶する初等部代表の児童



中等部代表の児童

# サマースクールが始まったよ

こどものくに幼稚園

2025.07.25

こどものくに幼稚園（ウエストチェスター郡ホワイトプレーンズ）は6月23日から6週間にわたるサマースクールを開始した。今年のテーマは「日本」。日本の伝統文化や遊びを体験しながら、その面白さに触れるのが目的。第1週目は「茶道」に取り組んだ。

まずは茶室を彩る「生け花」に挑戦。子どもたちは、各自が選んだ花を、形や高さ、バランスを見ながら慎重に生けていった。集中して花を生ける姿はまるで、小さな華道家のようだった。

茶室では浴衣を着て、正座をしてお茶をいただく日本ならではの特別な時間を過ごした。かぶとむしグループ（5～7歳）は、お茶を点てるところから挑戦。茶筅を使って手を動かし、心を込めて点てたお茶は特別な味がしたようで、大切そうに味わって飲んでいた。みんなでおいしくお茶菓子もいただいた。週の最後には、お茶菓子作りにも取り組み、作る楽しさと食べる喜びの両方を味わった。

茶道を通して日本独自の「おもてなしの精神」を感じる、特別な時間となった。（写真・情報提供：こどものくに幼稚園）



桜模様の浴衣、かわいいね。日本人形みたいです



お花を生けるのって、楽しいね

# サマースクールで囲碁・将棋に挑戦

こどものくに幼稚園

2025.07.25

こどものくに幼稚園（ウェストチェスター郡ホワイトプレーンズ）は6月23日からサマースクールを開催中。第2週目は囲碁と将棋をテーマに活動した。日本の伝統的な遊びを知り、楽しむきっかけ作りを提供することを目的に行なった。

囲碁も将棋もここアメリカでは初めて触れる子どもが多い。きんぎょグループ（3～4歳）は将棋の山崩し（山積みにした将棋の駒を、音を立てないように順番に取っていくゲーム）に挑戦した

「しーっ」と声をひそめながら、ゆっくりと真剣に駒を動かし、駒が取れたら静かに喜ぶ様子は見ていて微笑ましかった。また、かぶとむしグループ（5～7歳）は、動物将棋や五目並べなど、簡単なルールでできるものから挑戦した。将棋の指し方を知っている子どもが“先生”になり、将棋を知らない子どもが一緒に駒の動きやルールを学びながら遊ぶ姿も見られた。初めて「王（玉）」を詰むことができた子どもは、「もういっかいやってみたい」と目を輝かせていた。

新しい遊びに子どもたちは「初めてでよく分からないけどやってみよう」と挑戦し、喜びや自信を得ることができたようだ。（情報・写真提供：こどものくに幼稚園）



真剣に取り組む、ちびっ子将棋士たち

友達も応援。囲碁って、面白いね

# レイク・グリーリー・キャンプを終えて

NY 育英学園

2025.07.31

ニューヨーク育英学園（ニュージャージー州イングルウッドクリフス、岡本徹園長）は今年も提携先のペンシルベニア州レイク・グリーリー・キャンプ 6月 29 日から 7月 13 日まで、宿泊型サマーキャンプを実施した。

同キャンプは 50 年以上の歴史を誇る伝統的な施設で、学園とは 30 年以上にわたる信頼関係を築いている。毎年、小・中学生を対象に、学園職員が引率し、子どもたちと同室で生活し、身近な距離でサポートしている。

キャンプで用意されたアクティビティは 60 種類以上。空中ブランコ、乗馬、アーチェリー、射撃、布を使った空中アクロバットなどで、日常生活ではなかなか体験できない内容だ。子どもたちは毎日、5 ~ 6 種類のアクティビティを選び、主体的に取り組むことで自主性や判断力を育んでいった。

また、スマートフォンやタブレットといったデジタル機器を一切持ち込まない“デジタルデトックス”の環境も、このキャンプの大きな特長。画面の代わりに自然と向き合い、仲間と直接言葉を交わしながら過ごす日々は、子どもたちにとって心と体を解放する貴重な時間となった。

夕食後には「Dutch Auction」などのナイトアクティビティが行われ、キャビン単位で協力して参加するゲームに子どもたちは大盛り上がり。日中とは異なる一面が見られる楽しい時間が続いた。

さらに学園ならではの特色として、日本文化に親しむイベントも充実。今年は、野外でのカレー作り、そうめんパーティー、スイカ割りを実施。アメリカの大自然の中で“日本の夏”を思う存分味わった。

参加した子どもたちは、「日本人の友達ができてうれしかった」「仲の良い友達の新しい一面が見られた」「普段できないようなことをたくさん体験できた」などの感想が寄せられた。(情報・写真提供:ニューヨーク育英学園)



異文化交流、自然体験、自分自身と向き合う 2 週間となった



飽きることなく楽しめる  
アクティビティがいっぱい



空中ブランコにも挑戦



大自然の中で子どもたちの笑顔が弾けた



エデュサン  
edu sun

## 2. NY 教育関連ニュース

NEW YORK EDUCATION NEWS



16位に選ばれた、ニューヨーク州立大学ビンガムトン校のキャンパス内にあるクロックタワー

## 全米の「ベストバリューユニバーシティ」はどこだ？ NY州からは“あの10校”が選出 教育の質と学費のバランスが高評価 コロンビア大やCUNYもランクイン

2025.07.08

プリンストンレビューがこのほど発表した、「全米ベストバリューユニバーシティランキング」に、ニューヨーク州の10校が選出された。同ランキングは、「教育の質」「授業料」「経済的支援」「卒業生の就職見込み」などを基に費用対効果を評価したもので、公立大学と私立大学のトップ50がそれぞれ選ばれた。

### 公立部門：NY州からは4校が選出

ベストバリューユニバーシティランキングで選出されたニューヨーク州の大学は、以下の4大学：

- 16位 ニューヨーク州立大学ビンガムトン校 (SUNY Binghamton)
- 19位 ニューヨーク市立大学バルーク校 (CUNY Baruch College)
- 26位 ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校 (SUNY Stony Brook University)
- 44位 ニューヨーク市立大学ハンター校 (CUNY Hunter College)

ちなみに、全米トップ3の公立大学は以下の通り：

- 1位 ジョージア工科大学 (Georgia Institute of Technology)
- 2位 バージニア大学 (University of Virginia)
- 3位 ノースカロライナ大学チャペルヒル校 (University of North Carolina at Chapel Hill)

### 私立部門：名門校が並ぶNYの6校

コロンビア大学やコーネル大学もランクイン。一方、私立大学のランキングでもニューヨーク州の大学が健闘しています：

- 6位 コロンビア大学 (Columbia University)
- 12位 コーネル大学 (Cornell University)
- 20位 クーパーユニオン (The Cooper Union for the Advancement of Science and Art)
- 32位 コルゲート大学 (Colgate University)
- 39位 ユニオン大学 (Union College)
- 49位 バーナード大学 (Barnard College)

こうした大学では、手厚い経済支援制度や卒業後の高い年収も評価の対象となっています。

なお、私立部門の全米トップ3は：

- 1位 プリンストン大学 (Princeton University)
- 2位 カリフォルニア工科大学 (California Institute of Technology)
- 3位 マサチューセッツ工科大学 (Massachusetts Institute of Technology)



英語が母国語ではない生徒や、「恥の意識」が強いアジア系は声を上げづらいケースが予想され、保護者や学校側の理解と支援体制がより重要となる。写真はイメージ (photo: Unsplash / Markus Spiske)

## セクハラにさらされる少女たち 「怒っていい。もっと声を上げて」

2025.07.09

非営利団体ストップ・ストリート・ハラスメント (Stop Street Harassment) の調査によると、アメリカでは女性の 71% が路上でのハラスメントを経験。そのうち 3 分の 2 以上は 13 歳未満で経験していたことが分かった。これは路上ハラスメントのデータで、同年代の友達や学校、オンラインでの経験は含まれていないことから、「氷山の一角」と考えられる。少女たちが直面するセクシャルハラスメントについて、9 日付のチョークボードがレポートしている。

自身の体験を寄稿したアニカ・メルキンさんは 11 歳の時、SNS で性的なハラスメントを受けた。男子たちによる侮辱的な言葉がグループチャットに並び、それを母親と一緒に見たことで羞恥と混乱を覚えた。駆けで男性から露出されるなどの被害も繰り返し受けた。メルキンさんは「このような経験は自分だけでなく、多くの少女たちにとって日常となっている」と話す。学校では男子生徒に「女性が物のように扱われるのは女性自身のせいだ」と言われ、ショックを受けた。声を上げても「中学生の男子だから仕方ない」と教師や家族に軽視された。学校が用意した対話の場でも男子たちは「真剣に受け止めていなかった」という。

メルキンさんは、#MeToo 運動後も、少女たちは「笑って受け流せ」と社会から矛盾したメッセージを受けていると指摘。「強くなれ、でも強すぎないで。自信を持て、でも威圧的にならないで。声を上げろ、でも大声で言わないで。魅力的になれ、でも露出を控えて。賢くなれ、でも知ったかぶりにならないで。親切であれ、でも純真すぎないで」と。

メルキンさんは、「セクハラ的言動が数年後にまで尾を引いて、その人の自己認識に影響を与える可能性があることを理解してほしい」と訴える。もし過去の自分や、今、同じ状況にある少女に会ったら、「これは重大なことだ。あなたは過剰反応しているわけではない。あなたは一人ではない。あなたのせいではない。それは褒め言葉ではない。冗談でもない。他人が軽視するからといって、受け入れる必要はない。あなたは怒る権利がある。声を上げる権利がある。自分の平和を守る権利がある」と伝えたいという。



写真はイメージ (photo: Unsplash / Tim Mossholder)

## 全米トップクラスの評価 NY州の「教育力」

2025.07.21

ニューヨーク州の学校システムが全米で10番目に優れていることが、個人のための金融情報サイト、ウォレットハブ (WalletHub) の調査により明らかになった。同サイトが21日、発表した。

他の同様の研究が主に学業成績や学校の財政に焦点を当てているのに対し、ウォレットハブは成績、資金調達、安全、クラスサイズ、教員の資格など多角的な要素を含めた32の指標で比較、総合的に優れた州をランクイン化した。50の州とワシントンD.C.の中でニューヨーク州は総合で10位、教育の質では7位だった。また、高校卒業率、中退率、標準テストの成績、SAT・ACTの中間点、APスコア、生徒と教師の比率などでも高い評価を受けた。

遠隔学習計画の整備状況では1位、ACTの中間スコアでは6位と際立っていた。ただし、安全性に関しては20位にとどまり、いじめの発生率や薬物へのアクセスのしやすさなどの課題も見られた。一方で、読解力テストや教師の資格保有率では27位と平均だった。上位10位は次の通り。

- 1位、マサチューセッツ州
- 2位、コネティカット州
- 3位、ニュージャージー州
- 4位、バージニア州
- 5位、ニューハンプシャー州
- 6位、ウィスコンシン州
- 7位、ロードアイランド州
- 8位、インディアナ州
- 9位、メリーランド州
- 10位、ニューヨーク州



コロンビア大学 (photo: Unsplash / Chenwei Yao)

## NY の名門コロンビア大学が「負け和解」、連邦政府に 2 億 2100 万ドル

2025.07.28

キャンパス内の反ユダヤ主義的ハラスメントに対処しなかったとのトランプ政権の非難を契機とした数ヶ月間にわたる調査の末、コロンビア大学は 23 日、連邦政府に対し 3 年間で 2 億ドルの罰金を支払うことに同意した。また、3 月に平等雇用機会委員会 (EEOC) が宗教に基づく職場でのハラスメントの主張を受けて開始した調査を解決するために追加で 2100 万ドルを支払うこと、キャンパス内で反ユダヤ主義を抑制するための措置を講じることにも同意した。NPR が 25 日、伝えた。学問の自由の砦であるアカデミアが、権力側からの「兵糧攻め」に屈した、いわゆる「負け和解」となった。

コロンビア大学によると和解は、「年間研究資金の喪失、トップ研究者の流出、認証の失効、学生ビザの資格喪失など、大学として重大なリスクを避けるため」のもので、合意により、同大学は連邦政府からの 13 億ドルの資金にアクセスすることが可能となる。また今後、助成金や契約、賞の申請資格を再び取得できる。

コロンビア大学は声明で不正を認めなかったが、ユダヤ人学生と教職員がキャンパス内で「深刻で受け入れられない事件に直面した」と認め、改革が不可欠で既に進行中だと述べた。合意前日の 22 日には、同大学のバトラー図書館で 5 月に行われたパレスチナ支持デモに参加した 70 人を超える学生を懲戒処分（停学、抹籍など）にすると発表した。

24 日付ニューヨークタイムズは、反ユダヤ主義や D.E.I. を口実にした大学への揺さぶりで、政権側は東部名門校であるペンシルベニア大学とコロンビア大学に「負け和解」させたことで、他の大学に対し、「政策の見直しとキャンパス政治の再方向付けを迫るための実証済みの戦略」を手にしたと指摘。戦略とは、ターゲットとする大学に対し「反ユダヤ主義を助長したり、トランスジェンダーの権利を違法に支援したりした」という曖昧な理由を提示し、数億ドルの研究資金を削減。その後、要求を突き付け、大学当局を疲弊させ、ホワイトハウスへの譲歩が唯一の道筋に見えるように仕向けるというもの。現在、ブラウン、コーネル、ハーバード、ノースウェスタン、プリンストンの 5 つの名門大学が、戦うか交渉するかの決断を迫られている。

supported by



edu sun